

19万人のひろば

「子ども110番の家」 プレートの掲示にご協力ください

子どもたちの安全を守るための緊急避難場所として、市内各所に「子ども110番の家」のプレートを設置。小学校の保護者が中心となり管理運営を行っています。プレート掲示の依頼があった場合は、協力をお願いします。詳しくは、青少年課 ☎481-0306へ



プレートのデザインは2種類あります

ありがとうございました

「グリーンカーテン事業に活用してください」と、鈴木特殊化工株式会社から寄附をいただきました。
▶グリーンカーテン 一式 ▶ベルポット 210枚

ネット社会のこわさを知ろう

高津フレンズプラスワン「安全な利用法」

ゲームやインターネットなど、多くの機能を持つ便利なスマートフォン。利用者が広がり、大人よりも上手に使いこなす小・中学生も増えています。一方で、トラブルに巻き込まれるケースも増加しています。

5月2日、高津公民館の主催講座「インターネットの安全な利用法」では、グリー(株)の小木曾健さんが、ネット社会の危険性などを講演しました。軽い気持ちで投稿した写真などの個人情報が悪用されて将来に致命的な影響を及ぼすことも。匿名で載せたつもりの情報も数時間で個人が特定され、ネット上で拡散されてしまいます。トラブルから子どもを守るためにも、大人がネット社会の恐ろしさを認識し、子どもたちに緊張感と自覚を持たせることが大切です。



▶子どもが持つスマホの機能を親が使えることがトラブルの防止に

私も泥んこになって田植えしました

島田地区の水田で「家族お米作り体験」

5月3日、新川沿いの水田で「家族お米作り体験」が行われ、22家族98人が参加しました。田植え開始の合図で、苗を1株ずつ植えていきました。最初は恐る恐る足を踏み入っていた子どもたち。次第に柔らかい泥の感触にも慣れ、田植えを楽しみました。

この日に植えた品種はコシヒカリで、収穫は9月頃。1株からお茶碗約1杯分の玄米が取れます。「時々成長の様子を見に来てください」と農事組合法人「島田」の荻原さん。参加者は「稲刈りも楽しみ」と笑顔で会場を後にしました。



▶普段しない体験に親子の会話が弾みます

青年海外協力隊員としてジブチ共和国の 難民キャンプで「生きる力」を身に付ける

ひかる
山田輝之さん (26歳)



青年海外協力隊員として、ジブチ共和国に2年間派遣された山田輝之さん。4月30日に市長表敬訪問が行われ、現地での体験を報告しました。

なぜ、青年海外協力隊に応募を？

大学在学中にインターンシップで訪れたバングラデシュで、農村部の児童養護施設に行き、貧困を目の当たりにしたことがきっかけです。施設の子供たちと接する中で、自分にも何か力になれることがあるのではと思い、協力隊への参加を決意しました。

現地では、どのような活動を？

難民キャンプ内にある青少年センターで、主にソマリア・エチオピアからの難民の青少年を対象に、英語の歌に合わせて一緒に踊ったり、折り紙の指導を行ったりしました。エイズなどの啓発活動、スポーツ活動も行いました。特に印象に残ったことは、難民キャンプの子供たちと一緒に、本のしおりを作ったこと。完成したしおりを現地に駐留する海上自衛隊の隊員に販売し、その収益を辞書や絵本などの教材購入に充てたほか、孤児の生活向上に役立てました。

活動を進める中で、日本と全く異なる環境で予定どおりに事が運ばないこともたびたび。誰にも頼れない状況で、困難にぶつかると心が折れそうになりました。しかし、現地スタッフと働き始めて1年が経った頃、青少年センターの運営について、彼らが自ら考え、自分のやりたいことを私に提案してくれてきたことがありました。そういったスタッフの成長が見られたことが、私にとっての大きな喜びでした。

現地の生活で大変だったことは？

水道水が飲み水や料理に使えなかったことです。ジブチでは、海水を浄化して水道水にしているため、塩

分が残っており、しょっぱいです。一部の裕福な家庭ではミネラルウォーターを飲み水としていますが、多くの家庭では塩水を飲んでいました。生まれたときから塩水を飲んで育った子どもたちにミネラルウォーターを飲んでもらったことがあるのですが、彼らが「これは水ではない」と話していたのが印象的でした。

参加して、一番変わったことは？

どんなに大変なことや辛いことがあっても、乗り越えられるだけの力を身に付けたことです。滞在中は、「どうにかなる」という楽観的な気持ちと「どうにかする」という強い意志を常に持って過ごしました。派遣前は神経質な性格でしたが、帰国後は家族から「細かいことを気にしなくなったね」と言われました。「生きる力」が鍛えられました。

将来はどういう道に進みたいですか？

まずは日本で働き、日本のことをもっと知りたいです。行政の立場で地元の教育に携わっていきたいです。



▶ものづくり活動で得た収益で購入した本を贈呈する山田さん

やちよ俳壇

498回

小林希世子選

碁石	打つ男の子の指	や緑立つ	大和田新田	松本	真佐
家毎に	何かを咲かせ	春深し	八千代台北	大島	宏
散り際	を風に任せて	桜満つ	八千代台北	小川	育代
芽吹き	時仏間の窓を	全開に	村上団地	中山	幸子
投票を	待つ間の窓の	花吹雪	勝田台南	穎原	静子
山桜	根元に一つ	鶏の塚	村上南	平野	織江
耕人の	鋤の一振り	音確か	大和田新田	熊谷	文男
誰も居	ぬ広場に燃ゆる	つつじかな	勝田台	大木	昭子
葉桜や	背に頃合の	風吹いて	大和田新田	浅香	満子
剪定の	枝より落つる	樹液濃し	大和田新田	軽石	信子
春愁や	鉛筆の芯ふと	匂ひ	勝田台	手代木	敬子
臘夜の	湯舟にゆるりと	手足伸ぶ	勝田台	杉本美	恵子
春深し	出雲大社の	松香り	大和田新田	竹内	禎子
画架立	てし人も風景	山桜	八千代台南	豊永	純子
青空の	嵌め絵となり	て白木蓮	勝田台	三橋	昇
花ぐもり	歳時記を繰る	茶房かな	勝田台	椎名	泰光
甘茶仏	拝す後ろの	物産展	高津団地	横田	久子

選評

一句目、「緑立つ」は松の芯の事で、花が終った後で蕊が長く伸び緑色の新芽が軸のようにふき出して初々しく美しい。姿勢を正し碁石を打つ少年の細くて長い指先に秘められた力が季語と呼応する。二句目、「春深し」は晩春の爛熟しきった頃の感で、「行く春」への哀惜の情を含む。どの家にも花が咲き競い、そしてそれが終る。春深し妻と愁ひを異にして「安住」三句目、今は満開の桜だがやがては散る。その時は潔く風に任せよう…。桜の眩しさを自分の人生にも重ねて見る作者。対象物になり切った詠む事が大切。俳句は先ず「写生」。その中へ自分が入れば良い。

リサイクル・ガイド

消費生活センター ☎485-0559

●この欄のお問い合わせは消費生活センターへ。受け付けは、土曜・日曜日、祝日を除く午前8時30分から午後5時まで(午後4時～5時は☎483-1151へ)。市内在住の人が対象です。企業・団体の利用はできません。
【あげます】 ▶プラスチック製衣装ケース2個(押入れ用) ▶アンティーク風西洋人形 ▶紳士礼服(170cm) ▶低反発マットレス(シングル・厚さ8cm)
【ゆずって/有料】 ▶八千代高校制服(スカート:ウエスト63cm) ▶ぶら下がり健康器 ▶村上東中学校制服(スカート:ウエスト66cm、丈63cm) ▶大和田西小学校体操服 ▶幼児用自転車(年中～小学校低学年用)

テレビ
広報

やちよNAVI

“健康寿命”をのぼそう
～介護が必要となる前に～
J: COMチャンネル(デジタル放送11ch デジアナ変換放送2ch)で1～15日12時、20時30分/各15分間